

日本医学会分科会活動報告

公益社団法人日本老年精神医学会

理事長 池田 学

I. 医学および医療の水準の向上への貢献が日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会の独自の活動を以下に留意して記載をしてください。

a. 特に学術的に重要と考えられるもの

新型コロナウイルス感染症の世界的感染拡大により、世界各国の学会がどのように活動を維持するかという課題に直面している。日本老年精神医学会においても、理事長のリーダーシップのもと、危機管理体制を整えるとともに各種委員会が相互に協力し、感染防止に勤めながら会員の組織・団体の情報共有を行いながら学会活動を展開している。

- ・ 認知症を中心とする老年精神医学の専門医の育成（現在の会委員数 2891 名：専門医数 1037 名）

- ・ 日本老年精神医学会年次学術大会の開催（主催）

- ・ アジア諸国との若手研究者人材交流（学会発表への招聘およびアジア諸国への発表派遣）

- ・ International Psychogeriatric Association（国際老年精神医学会）年次大会への開催協力・参加

- ・ Regional International Psychogeriatric Association（国際老年精神医学会分科会）年次大会への開催協力・参加（本年は京都・WEBにて合同開催）

- ・ 学会機関紙「Psychogeriatrics」の発行（現在のインパクトファクター：1.75）

- ・ 学会準機関紙「老年精神医学雑誌」の発行

- ・ 学会奨励賞（学会優秀論文賞）の選考および表彰

- ・ 学会専門医および学会員のための生涯教育

- ・ 老年精神医学、認知症医療に関わる専門職の人材育成（専門心理士制度など）

b. 当該領域における国際的な役割

日本は認知症医療の実践と研究及び人材育成において、アジアをリードする立場にある。中国、台湾、韓国などの諸国と協力し医療実践や調査・研究をアジアにて推進したい。各国の認知症疾患及び高齢者における精神神経疾患の医療実践、研究活動、人材育成、社会貢献に関わる人材と協力して推進している。

しかし新型コロナウイルス感染症の影響がもっとも甚大であったのは国際化である。各種国際会議が中止の余儀なくされている。日本老年精神医学会では、積極的にオンラインの実施などの代替措置を講じた上で、少しでも学会の歩みを止めることなく、研究交流を行うべく努力している。WEB開催の技術と経験を少しずつ蓄えつつあるので、それを生か

しながら感染拡大状況をチェックし対策を行いつつ、WEB開催または現地対面開催または両者の併用を随時行っていきたい。

c. 活動からもたらされる社会的な意義

- ・ 認知症専門医療の均てん化とレベルアップ（認知症疾患医療センター全国研修会などへの学会からの講師派遣、WEB教材の整備）
- ・ 市民公開講座による認知症や老年期うつ病などに対する先入観や偏見の払拭
- ・ 一般国民から見た認知症医療の分かりやすさの追求（例：診療科名など）

d. 学会運営上留意している点

- ・ 役員選挙における透明性・公平性
- ・ 老年精神医学を通じた学会員の社会貢献
- ・ 女性及び若手学会員の積極的登用

II. 日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会と他の分科会との連携による活動を記載してください。

- ・ 日本認知症学会との専門医制度に関する協働と連携
- ・ 日本老年学会に参加する日本老年医学会、日本老年社会科学会、日本基礎老化学会、日本老年歯科医学会、日本ケアマネジメント学会、日本老年看護学会との連携

【貴学会からの期待・要望】

日本医学会の方向性に関しては、日本医師会と専門学会のバランスを上手く取って日本の医学を正しい方向に導いていただきたい。今回の新型コロナウイルス感染症対策でも明らかなように、専門性の高い医療は極めて重要であり、十分な研究費確保の提言や専門医制度の課題などに積極的に取り組んでいただきたい。今後とも、医学関連の学会の意見や要望について、従来以上に受け止めてくださることを期待したい。